

第189回 「元気に百歳」クラブ俳句サロン「道草」開催

四ヶ月ぶりの新橋を、生涯学習センター「新橋ばるーん」に向かいました。一階フロアのカフェでパンを齧りコーヒーを飲み、資料を読んだりして、「ばるーん」の雰囲気を楽しみました。今日は最終まで「句会がスムーズに進行するか」を、記憶を辿りながら見守っていました。連続して開催してきた句会を、途中で通信句会を挟んだとはいえ、四ヶ月も休会していたこと。やはり緊張するものがありました。

本日参加された方々は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、高瀬荻女さん、中島懂岳さん、本間傘吉さん、芦尾白然の10名でした。なお、板倉歌多音さん、住田幸佳さん、辻柴楽さん、原晶如さん、森田多佳さんの5名の方々が、投句で参加されました。

住田先生は、資料も配布して下さっていたのですが、今日はいきなり黒板に席題を提示されて、句会に入られました。本日、皆さんが詠まれた句を先生が短冊に書かれ、席題毎に黒板に並べて披露し、皆さんが選句して、天賞句、最多得票賞（☆印）句の栄に輝いたのは、下述の通りです。

席題1. 「梅雨晴間」又は「梅雨晴」

- | | | |
|--------------------|----|------|
| ◎『ベビーカーの父みな若し梅雨晴間』 | 荻女 | 天2☆5 |
| ◎『梅雨晴間しばし艶めく古瓦』 | 明峰 | 天1 |

席題2. 「滴り」

- | | | |
|-----------------|----|------|
| ◎『滴りを苔に転がす谷間風』 | 懂岳 | 天2☆5 |
| ◎『目にしみる汗滴りて庭掃除』 | 創風 | 天1 |

席題3. 当季雑詠の自由題（=夏=）

- | | | |
|---------------------|---------|------|
| ◎『還りたし遠い昔の夏の海』 | 歌多音（投句） | 天1☆6 |
| ◎『磨かれし百間廊下青葉風』 | 晶如（投句） | 天1 |
| ◎『色も濃き喪家の庭の夾竹桃』 | 傘吉 | 天1 |
| ◎『気がつけばコロナコロナで夏に入る』 | 創風 | 天1 |
| ◎『旅誘ふ録画景色や風薫る』 | 蒼樹 | 天1 |

（道人の一句）

滴りを掌に受け渴き癒す贅 住田道人

席題1. では、荻女さんの句「ベビーカーの父みな若し梅雨晴間」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。先月の歌多音さんの句の新型コロナウイルス蔓延下で生じた「新しき日常」ではありませんが、「若き父たちのベビーカーのフォロー」も、ついついこれを想起しますね。次に明峰さんの句「梅雨晴間しばし艶めく古瓦」が、天賞一つを獲得しました。中七、下五の「艶めく古瓦」とは、何と奥の深い感慨でしょうか。懐かしささえ感じます。梅雨の晴れ間の愛おしさが、滲み出てきます。

席題2. では、懂岳さんの句「滴りを苔に転がす谷間風」が、天賞二つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。この句は苔の上の滴りを見事にキャッチ、風によって転がる場所を捉えました。句会の中では、住田先生も仰いましたが、昨年11月の行田吟行の折りに明峰さんが詠まれた句「墳丘を十一月の風転げ」があります。次に創風さんの句「目にしみる汗滴りて庭掃除」が、天賞一つを獲得しました。汗の滴りとは、世事の中では「オーソドックスな滴り」を、地道にキャッチしました。これが選者の共感を得たのでしょうか。

自由題では、投句で参加して下さった歌多音さんの句「還りたし遠い昔の夏の海」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得しました。確かに「自粛」というコロナウイルス禍の下での暮らしは、先の見通しが判明せず、郷愁のような確かな昔の思い出が、とても懐かしく脳細胞に甦ります。中七、下五の「遠い昔の夏の海」には、まさにその懐かしさが、こみ上げて来るのではないのでしょうか。見事に高得票を獲得されました。次も、これまた投句で参加された晶如さんの句「磨かれし百間廊下青葉風」が、天賞一つを獲得しました。この句の芯は、中七の「百間廊下」にあり、これが磨かれて、青葉風の下で確かな位置をでんと構えていること、これに尽きると思います。余計な言葉は要りませんね。

次に傘吉さんの句「色も濃き喪家の庭の夾竹桃」が天賞一つを獲得しました。私たちの年代の人間には、ピンクと白の夾竹桃の花が、何か迫って来るものがあります。七十五年も前の終戦を迎えた直前直後の日本を、夾竹桃の景から切り離しては考えられません。この句の訃報には、何かそれが感じられます。次に創風さんの句「気がつけばコロナコロナで夏に入る」が、天賞一つを獲得しました、この句の訴える「気がつけば、もう夏に入っている」という「焦燥感」、とはいえ、「コロナがどうした」という開き直りの気風の良さも感じられます。選者もその気風に票を投じたのでしょう。次に蒼樹さんの句「旅誘ふ録画景色や風薫る」が、天賞一つを獲得しました。録画を見られている方には、旅に行った気分になられて、薫る風さえ感じられるというものです。きっとお気に入りの録画が流れていたのでしょうか。選者の共感はそこにあったと思われます。

四ヶ月ぶりの「新橋ばる一ん」は、緊張感もあり、快調なペースとは申せませんが、先ずは着実なる一步を踏み込みました。八月にはさらにもう一步、前進することが出来るように、今から準備にかかりましょう。次は8月7日です。皆さん元気にお会いしましょう。

白然（記）